

---

PM7:10

河衣小牧

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

PM7:10

### 【Nコード】

N2778F

### 【作者名】

河衣小牧

### 【あらすじ】

なんでもないこの時間こそ、きっと、何よりも特別で。

空に淡い月が昇る頃。  
僕と君と二人で向かう家路。

「ただいま。」

「お帰りなさい。」

いつもの会話。  
僕のただいまに、  
一緒に帰って来た筈の君は返事を返してくれる。  
不思議だけれど、それが僕等の当たり前前の風景。  
でも、今日は。

「ねえ、」

靴を脱ごうとした僕の肩に触れる細い手。

「なに？」

靴に掛けた手を止めて向き直る。  
ほんの少し躊躇ってから、君は僕を見つめて。

「ただいま。」

口にした途端、照れた様に髪を梳く君は、可愛くて、可愛くて。

僕より幾分か背の小さい君。

やや腰を屈めて、君の高さで交わす視線。

「お帰りなさい。」

いつもと違う僕等の会話。

お互いに自然と顔が綻んで。

君はもう一度

「ただいま。」

と上目遣いに呟いた。

狡いんだから。

そうやって、僕を惑わせる。出逢って、恋をして、過ごす時間の長さを共有して。

それでも相変わらず、君は可愛い人。  
今も僕の愛しい人。

手の平で柔らかな黒髪をかきあげて。  
その白い額にくちづけをする。

君はきつと、頬を赤く染めながら、ふふつと微笑って《わらって》くれるだろう。

この時間が、堪らなく好きだ。  
あつたかくて、くすぐったくて。

君にこんなこと言ったら、また笑われるかも知れないけど。

1111511111

1111511111

幸せっていふんじゃないかなあ？

P M 7 : 1 0

なんでもない  
特別な  
幸せに

この胸いっぱい感謝を込めて。

(後書き)

小牧です。今回は、同じ屋根の下で暮らす2人をテーマにしました。

この頃作品をUPするのが早い気もしますが、きっと秋は芸術の…だからでしょうね。お読み頂きありがとうございます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2778f/>

---

PM7:10

2011年1月13日06時05分発行